
[SP 改]

リスト フィールド デザイナー

FOR SHAREPOINT 2016

管理者マニュアル

1.0 版 2016 年 12 月 16 日

株式会社アンク



目次

稼働環境.....	2
インストール.....	3
アップグレード.....	4
アンインストール.....	5
ログ出力設定.....	6

稼働環境

『[SP 改]リスト フィールド デザイナー』は、以下の環境で動作します。

- Microsoft SharePoint Server 2016

インストール

以下の手順でインストールします。

1. ソリューションの追加

Stsadm コマンドの Addsolution (または PowerShell の Add-SPSolution コマンド)を使ってソリューション ファイル「listfielddesigner.wsp」をソリューション ストアに追加します。

例) stsadm.exe -o addsolution -filename c:\¥listfielddesigner.wsp

例) Add-SPSolution -LiteralPath c:\¥listfielddesigner.wsp

ソリューション ファイルの詳しいインストール方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Addsolution : Stsadm の操作 (Windows SharePoint Services)

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc263162\(office.12\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc263162(office.12).aspx)

Add-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607552.aspx>

2. ソリューションの展開

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファーム ソリューションの管理] ページを開き、上記で追加した「listfielddesigner.wsp」を Web アプリケーションに展開します。

※本機能は「ファーム ソリューション」です。サイトコレクションレベルで展開した場合はサポートされません。

3. 機能の有効化

本機能を利用するサイトの、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]リスト フィールド デザイナー』を「アクティブ」にします。

アップグレード

既に本機能の以前のバージョンがインストール済みの環境に、新しいバージョンを適用する場合には、以下の手順でアップグレードします。

1. ソリューションのアップグレード

Stsadm コマンドの Upgradesolution（または PowerShell の Update-SPSolution コマンド）を使ってソリューション「listfielddesigner.wsp」を更新（ジョブを投入）します。

例）stsadm.exe -o upgradesolution -filename c:\¥listfielddesigner.wsp -name listfielddesigner.wsp -immediate -allowGacDeployment

例）Update-SPSolution -Identity listfielddesigner.wsp -LiteralPath c:\¥listfielddesigner.wsp -GACDeployment

ソリューション の詳しいアップグレード方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Upgradesolution : Stsadm の操作 (Windows SharePoint Services)

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc287722\(office.12\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc287722(office.12).aspx)

Update-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607724.aspx>

2. Stsadm コマンドの Execadmsvcjobs（または PowerShell の Start-SPAdminJob コマンド）を使って投入済みのジョブを実行します。

例）stsadm.exe -o execadmsvcjobs

例）Start-SPAdminJob

ジョブの詳しい実行方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Execadmsvcjobs : Stsadm の操作 (Windows SharePoint Services)

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc288149\(office.12\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc288149(office.12).aspx)

Start-SPAdminJob

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607833.aspx>

※アップグレード時の注意点

アップグレードの操作中に、自動的に IIS が再起動されます。自動的に再起動されない場合には、IIS マネージャや IISReset コマンド等で IIS の再起動を行ってください。

IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc770764%28WS.10%29.aspx>

アンインストール

以下の手順でアンインストールします。

1. 機能の無効化

本機能を利用しているすべてのサイトの、トップレベルサイトの [サイトの設定] 画面から [サイトコレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]リスト フィールド デザイナー』を「非アクティブ」にします。

2. ソリューションの取り消し

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファームソリューションの管理] ページを開き、「listfielddesigner.wsp」を すべての Web アプリケーションから取り消します。

※アンインストール時の注意点

必ず『[SP 改]リスト フィールド デザイナー』を“非アクティブ”にしてから、展開の取り消しを行ってください。

3. ソリューションの削除

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファームソリューションの管理] ページを開き、「listfielddesigner.wsp」を削除します。

ログ出力設定

不具合調査等で、ログを出力したい場合は以下の手順でトレースログ出力の設定を行ってください。

※ログの出力は、他の SharePoint 機能やサービスと同じ様に「診断ログ」として出力されます。そのため、十分に運用計画を行ってから設定してください。

※フォーム列制御機能のトレースログは、[Process]属性 が「listfieldddesigner」で出力されます。

1. [サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの [監視] から [レポート] セクションの [診断ログの構成] を表示します。
2. [記録されるイベントの設定] の設定を行います。
 - [カテゴリの選択]に表示されているツリービューで、[SharePoint Foundation] ノードを展開します。

記録されるイベントの設定

これらの設定を使用して、Windows イベント ログおよびトレース ログに記録されるイベントの重要度を制御します。重要度を下げると、記録されるイベントの数が増加します。

1 つのカテゴリの設定を変更することも、すべてのカテゴリの設定を変更することもできます。すべてのカテゴリを更新すると、個々のカテゴリの変更内容が失われます。

カテゴリの選択	カテゴリ	イベント レベル	トレース レベル
☐	すべてのカテゴリ		
☐	Access Services		
☐	Business Connectivity Services		
☐	Document Conversions		
☐	Document Management Server		
☐	eApproval		
☐	Excel Services Application		
☐	InfoPath Forms Services		
☐	Office Web Apps		
☐	PerformancePoint Service		
☐	Project Server		
☐	Secure Store Service		
☒	SharePoint Foundation		

- 展開された子ノードから [Web Parts] のチェックボックスにチェックを入れます。

☐	SharePoint Foundation		
☐	Alerts	なし	なし
☐	Backup and Restore	なし	なし
☐	Browser SQM	なし	なし
☐	Business Data	なし	なし
	⋮		
☐	Usage Infrastructure	なし	なし
☐	Web Controls	なし	なし
☒	Web Parts	なし	なし
☐	Workflow Infrastructure	なし	なし
☐	SharePoint Foundation Search		

- [トレースログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] で、「高」を選択します。

イベント ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

なし

トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

高

3. [トレースログ] で、トレースログが保存される場所、保存するログファイル数、1 つのログファイルを使用する時間を設定することができます。

トレース ログ

トレースを有効にすると、トレース ログを特定の場所に保存することができます。注意: ファームのすべてのサーバー上に存在する場所を指定する必要があります。

他に、ログ ファイルの最長保存日数を設定したり、ログに使用するディスク領域の最大容量を制限することができます。トレース ログの使用に関する詳細

パス
%CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS%
例: C:\Program Files\Common Files\Microsoft Shared\Web Server Extensions\14\LOGS

ログ ファイルの保存日数
14

トレース ログのディスク領域の使用を制限する
☐ トレース ログのディスク領域の使用を制限する

トレース ログの保存容量の最大値 (GB)
1000

4. [OK] ボタンをクリックし、設定を完了します。

以上